

岡崎市 国際化推進基礎調査業務

調査結果報告書（概要版）

令和元年 12 月

岡 崎 市

I 調査概要

1 調査の目的

地域特性を考慮し、岡崎市の国際化推進計画に係る取り組みを展開していくために、国際化に関する市民意識と在住外国人の生活状況をアンケート調査により把握することを目的とする。

2 調査対象及び調査方法

①調査対象者

(1) 外国人市民

韓国・朝鮮国籍を除く満18歳以上の外国人市民全員から抽出 2,000人

(2) 日本人市民

満18歳以上の日本人市民から抽出 1,000人

②調査期間

・令和元年9月4日から令和元年9月24日

③調査方法

- ・郵送配布、回収
- ・外国人市民の調査票は、外国人版（ポルトガル語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、スペイン語、英語、インドネシア語、タイ語、ネパール語の9言語の翻訳）とルビ付き日本語版を使用しました。

④調査実施機関

・岡崎市 社会文化部 国際課

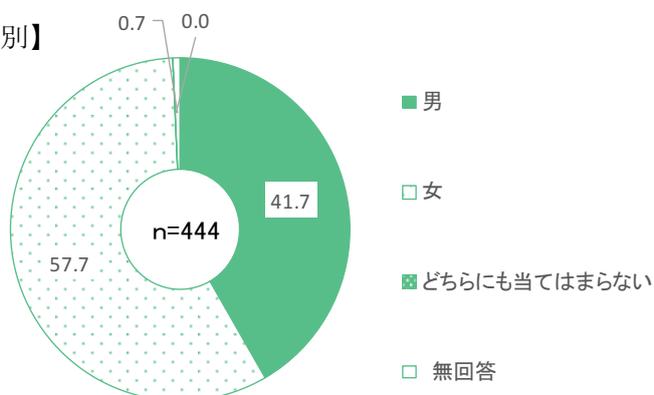
3 調査票の回収状況

	外国人市民	日本人市民
標本数	2,000 (100.0%)	1,000 (100.0%)
回収数 (率)	445 (22.3%)	400 (40.0%)
有効回収数 (率)	444 (22.2%)	397 (39.7%)

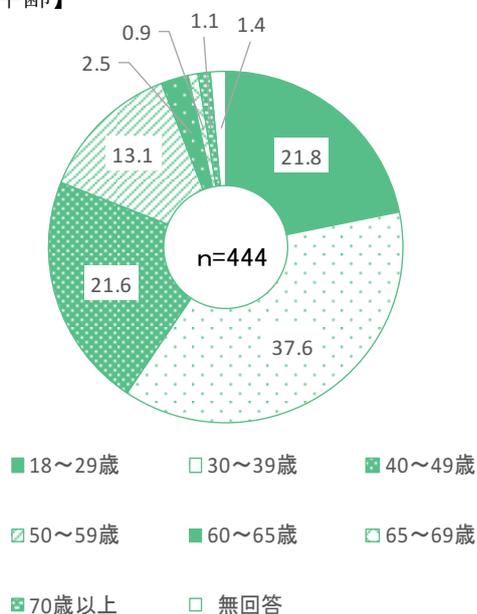
Ⅱ 外国人市民の調査結果

回答者の属性

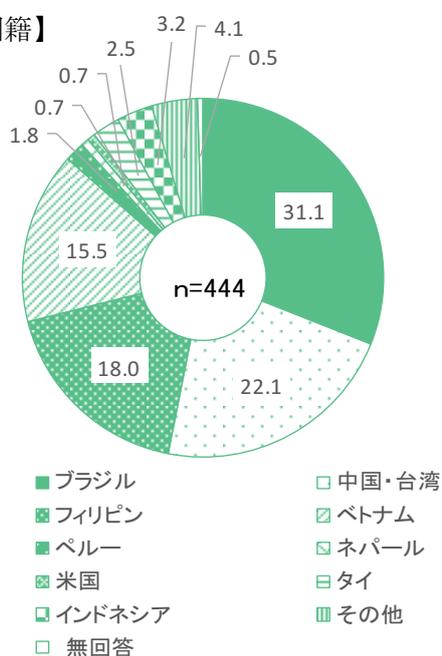
【性別】



【年齢】

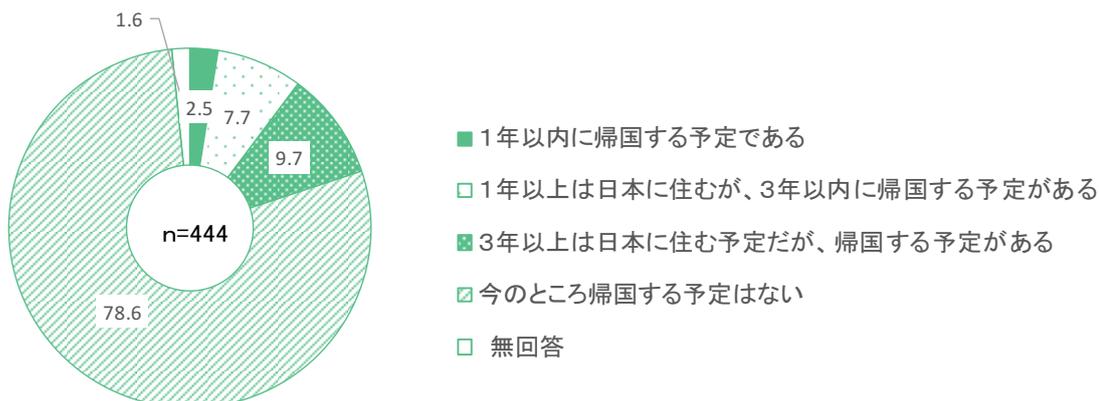


【国籍】



Q. 母国に帰国する具体的な予定はありますか？

・母国に帰国する予定については、約8割（78.6%）が「今のところ帰国する予定はない」と回答しています。

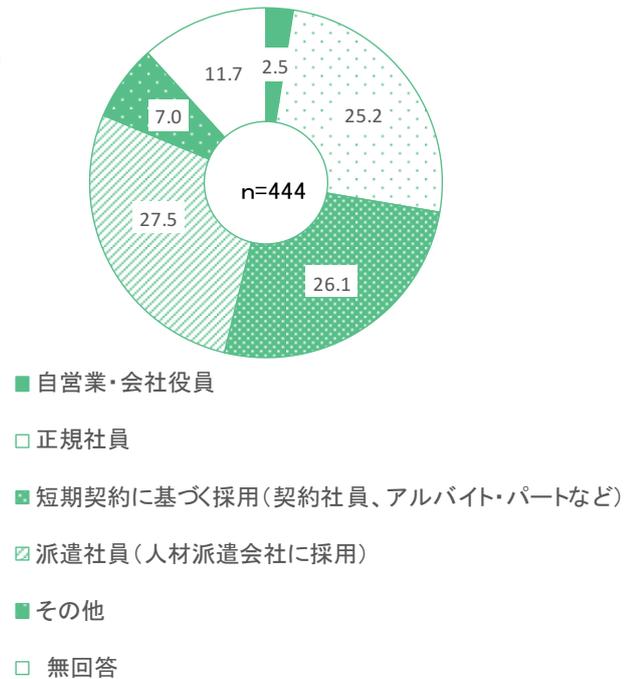
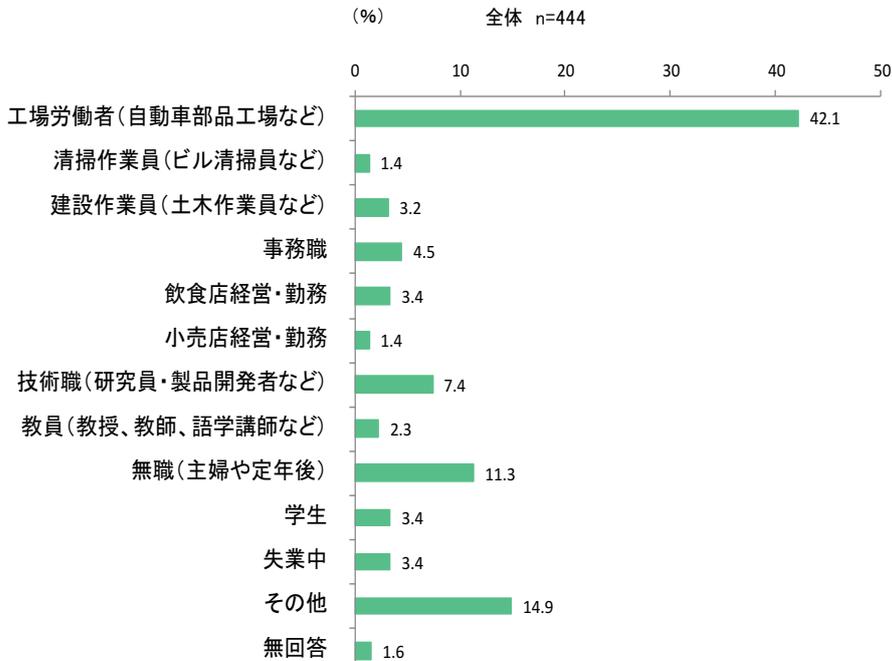


仕事と住居

Q. どんな仕事をしていますか？

Q. 仕事の採用の形態は？

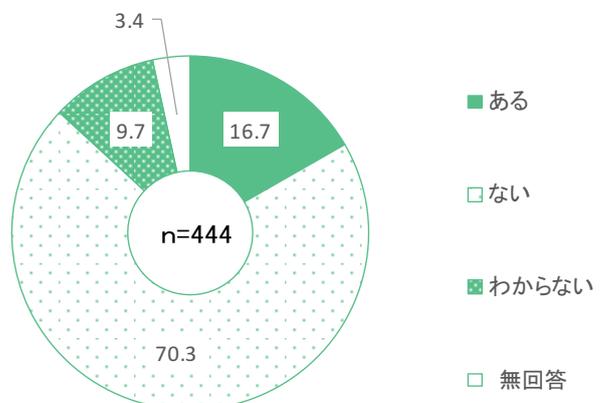
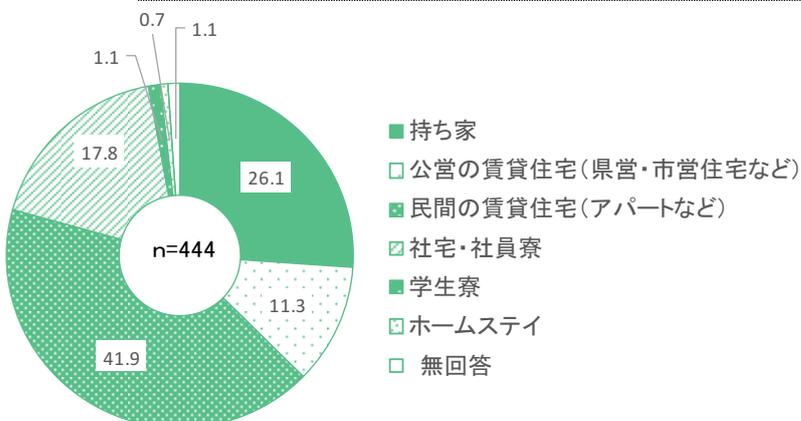
- ・現在の仕事は、4割以上（42.1%）が「工場労働者（自動車部品工場など）」と回答しています。
- ・仕事の採用形態は、「派遣社員」（27.5%）が最も多く、次いで「契約社員・アルバイト・パート」（26.1%）、「正規社員」（25.2%）の順となっています。



Q. 現在の住まいの種類は？

Q. 家探して困ったことは？

- ・住宅の種類は、「民間の賃貸住宅」（41.9%）が最も多く、次いで「持ち家」（26.1%）、「社宅・社員寮」（17.8%）の順となっています。
- ・家探して困ったことは、約7割（70.3%）が「ない」と回答しています。

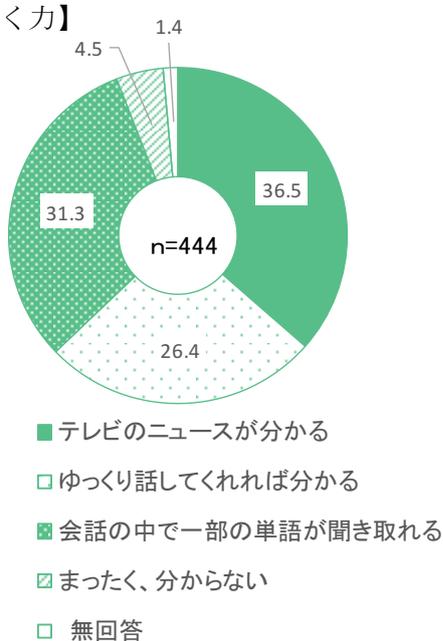


日本語能力

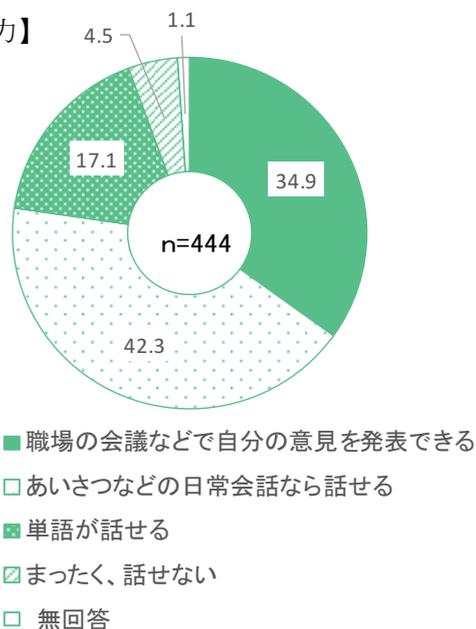
Q. どのくらい日本語ができますか？

- ・聞く力は、「テレビのニュースが分かる」(36.5%)が最も多く、次いで「会話の中で一部の単語が聞き取れる」(31.3%)、「ゆっくり話してくれれば分かる」(26.4%)の順となっています。
- ・話す力は、「あいさつなどの日常会話なら話せる」(42.3%)が最も多く、次いで「職場の会議などで自分の意見を発表できる」(34.9%)、「単語が話せる」(17.1%)の順となっています。
- ・読む力は、「簡単な漢字・ひらがな・カタカナが読める」(37.2%)が最も多く、次いで「ひらがな・カタカナが読める」(26.6%)、「新聞や雑誌が読める」(22.5%)の順となっています。
- ・書く力は、「簡単な漢字・ひらがな・カタカナが書ける」(31.5%)が最も多く、次いで「ひらがな・カタカナが書ける」(29.5%)、「漢字を混ぜて意見等を書ける」(19.8%)の順となっています。

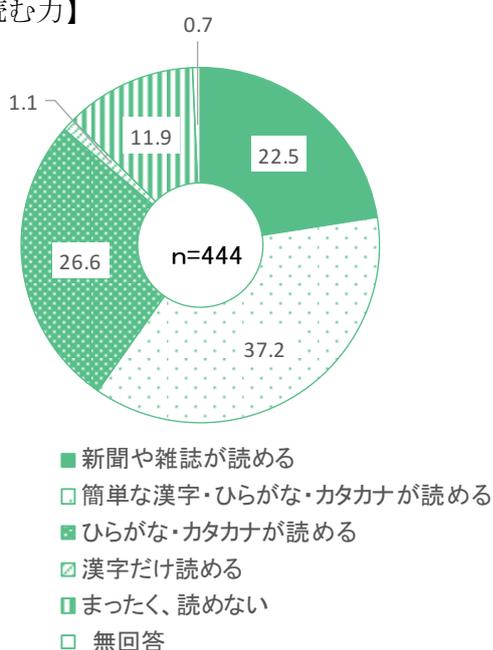
【聞く力】



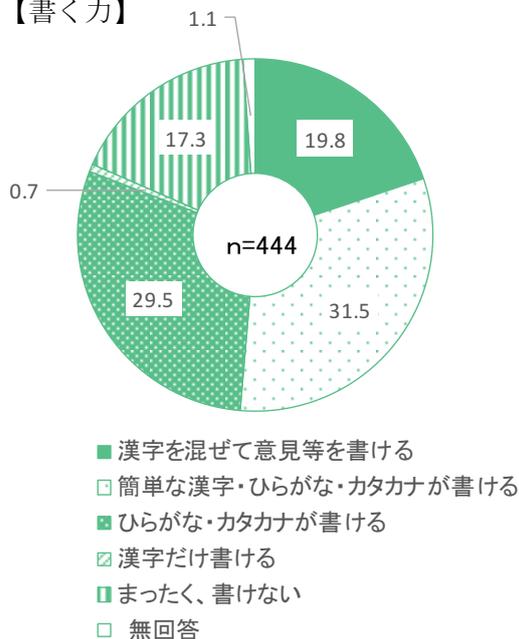
【話す力】



【読む力】

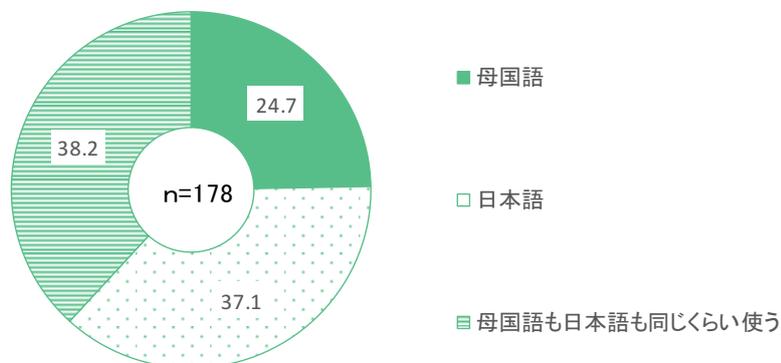


【書く力】



Q. お子さんは主に何語を使っていますか？（15歳以下の子どもがいる方のみ）

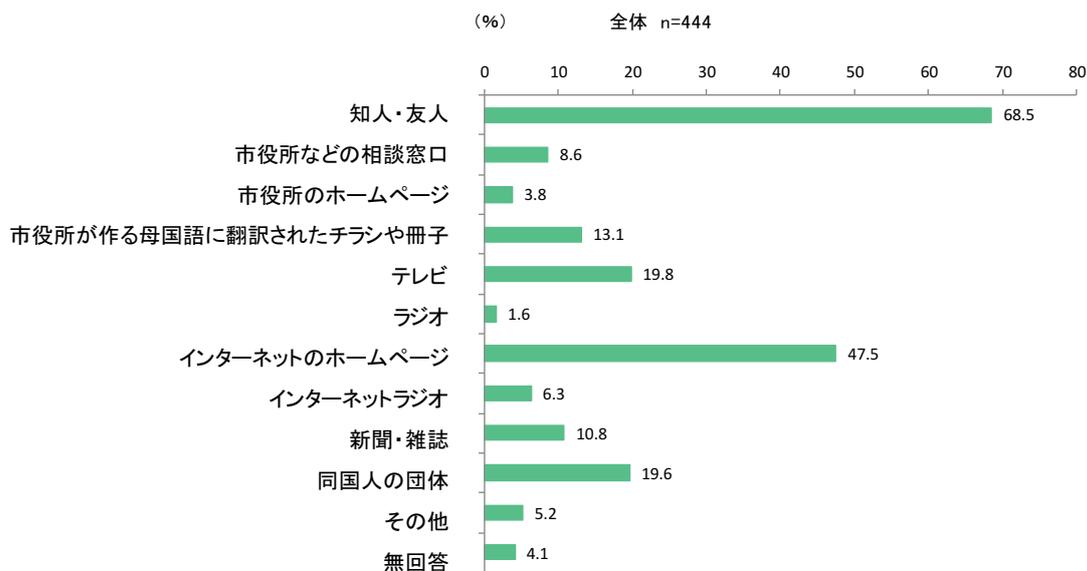
- ・子どもの使用言語は、「母国語も日本語も同じくらい使う」（38.2%）が最も多く、次いで「日本語」（37.1%）、「母国語」（24.7%）の順となっています。



生活に必要な情報とその入手先

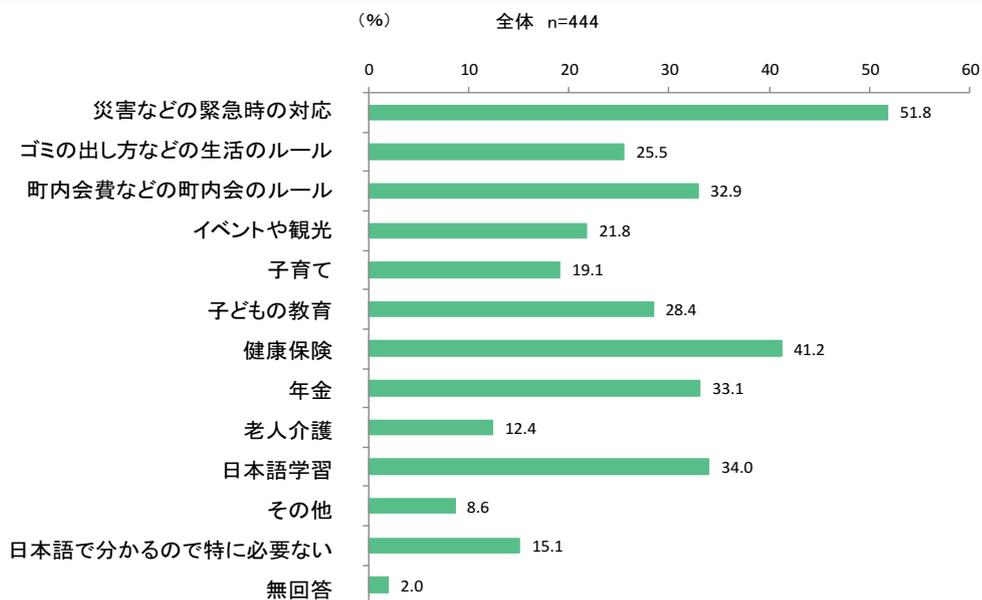
Q. 母国語で生活に必要な情報は主にどこから得ますか？（複数回答）

- ・母国語の情報源は、「知人・友人」（68.5%）が最も多く、次いで「インターネットのホームページ」（47.5%）、「テレビ」（19.8%）の順となっています。



Q. 母国語での情報提供を充実して欲しいものはどれですか？（複数回答）

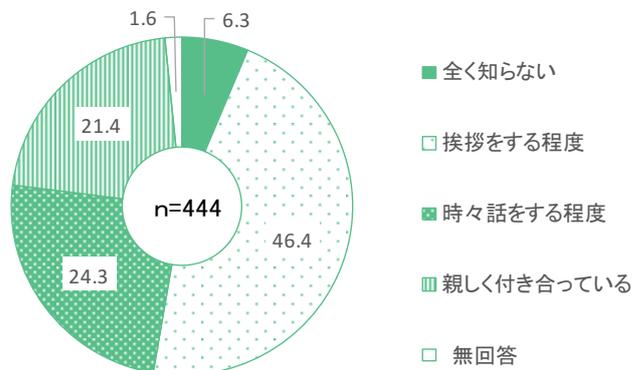
- ・充実して欲しい母国語言語は、「災害などの緊急時の対応」（51.8%）が最も多く、次いで「健康保険」（41.2%）、「日本語学習」（34.0%）の順となっています。



地域での生活

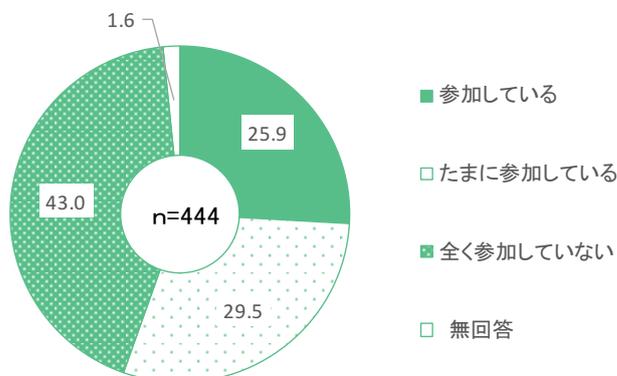
Q. あなたの周りに住んでいる日本人とどのくらい付き合いがありますか？

- ・地域の日本人との付き合いは、「挨拶をする程度」（46.4%）が最も多く、次いで「時々話をする程度」（24.3%）、「親しく付き合っている」（21.4%）の順となっています。



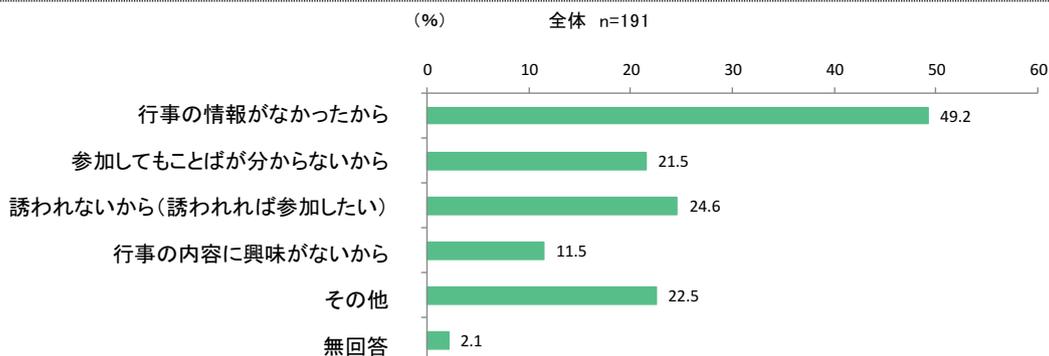
Q. 町内のお祭りや清掃活動など、地域の行事に参加していますか？

・地域の行事への参加は、約4割（43.0%）が「全く参加していない」（43.0%）と回答しています。



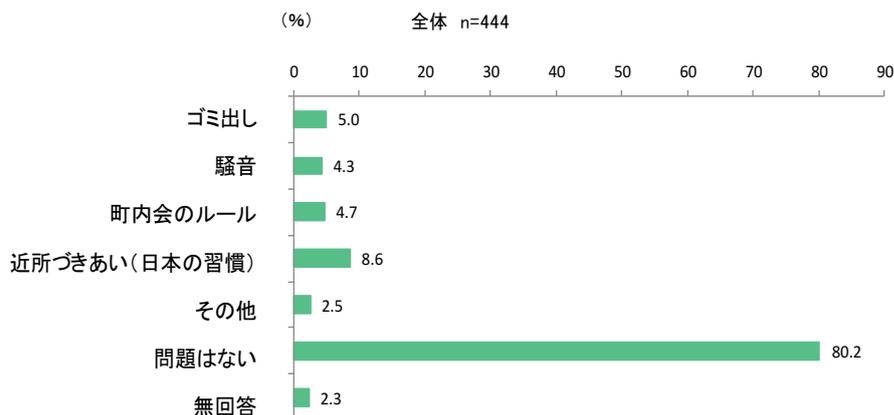
Q. 地域の行事に参加しない理由は？（「全く参加していない」と回答した方のみ・複数回答）

・地域の行事に参加しない理由は、約5割（49.2%）が「行事の情報がなかったから」と回答しています。



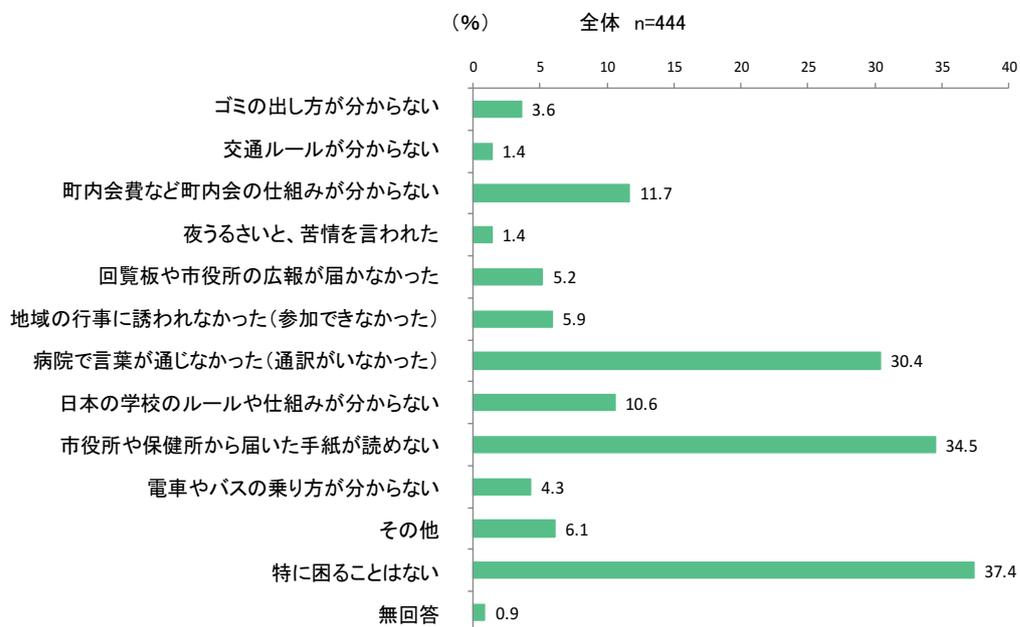
Q. あなたの周りに住んでいる日本人と生活上どんな問題がありますか？（複数回答）

・地域の日本人との問題は、「近所づきあい（日本の習慣）」（8.6%）や「ゴミ出し」（5.0%）がある。一方で、「問題はない」は80.2%と最も高くなっています。



Q. 日常生活で、特に困ったことは何ですか？（複数回答）

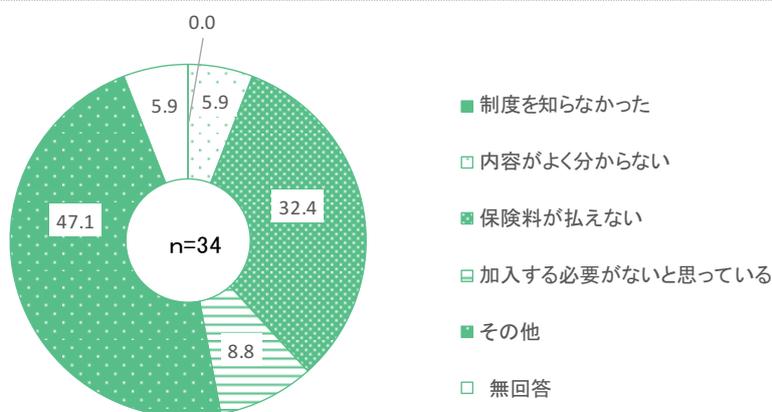
- ・日常生活で困ったことは、「市役所などから届いた手紙が読めない」（34.5%）や「病院で言葉が通じなかった（通訳がいなかった）」（30.4%）がある。一方で、「特に困ることはない」は37.4%と最も高くなっています。



年金

Q. 加入していない理由は何ですか？（「加入していない」と回答した方のみ）

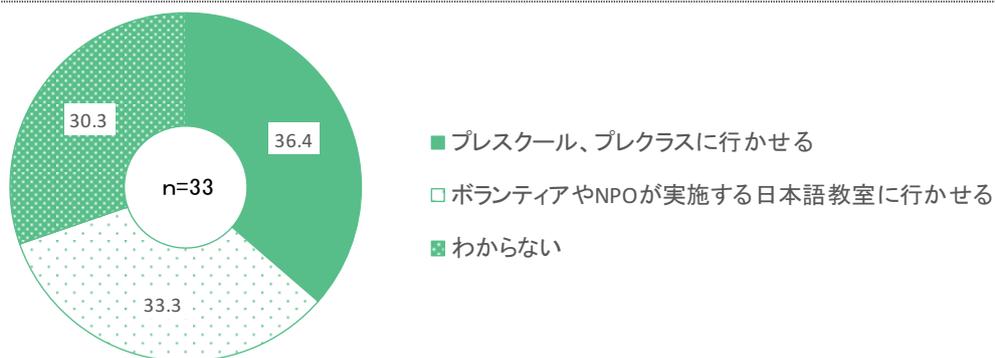
- ・年金未加入の理由は、「その他」（47.1%）が最も多く、次いで「保険料が払えない」（32.4%）、「加入する必要があると思っている」（8.8%）の順となっています。



教育・子育て・家族

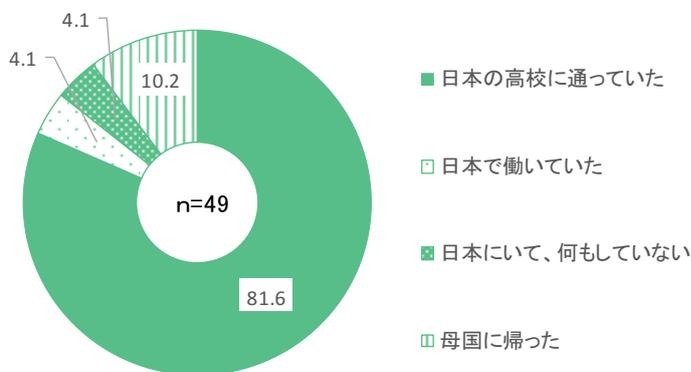
Q. 「子どもが日本語ができない」又は「授業の内容が理解できない」ことの対応策は？
(15歳以下の子どもがいる方のみ)

- ・対応策は、「プレスクール、プレクラスに行かせる」(36.4%)が最も多く、次いで「ボランティアやNPOが実施する日本語教室に行かせる」(33.3%)、「わからない」(30.3%)の順となっています。



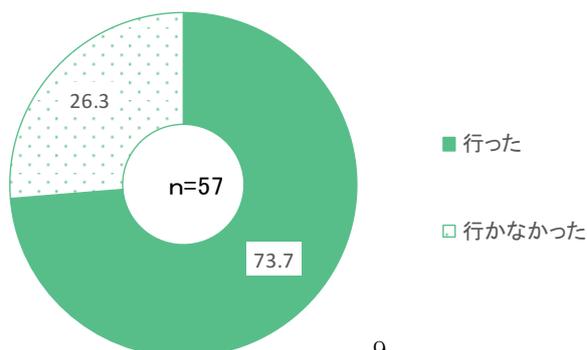
Q. あなたの子どもは16歳から18歳の間、何をしていましたか？
(1997年4月2日以降に生まれた子どもがいる方のみ)

- ・子どもがしていたことは、「日本の高校に通っていた」(81.6%)が最も多く、次いで「母国に帰った」(10.2%)の順となっています。



Q. あなたの子どもは日本の学校に行きましたか？
(1997年4月2日以降に生まれた子どもがいる方のみ)

- ・日本の高校への進学は、7割以上(73.7%)が「行った」と回答しています。



Q. あなたの子どもが日本の高校に行かなかった理由は何ですか？

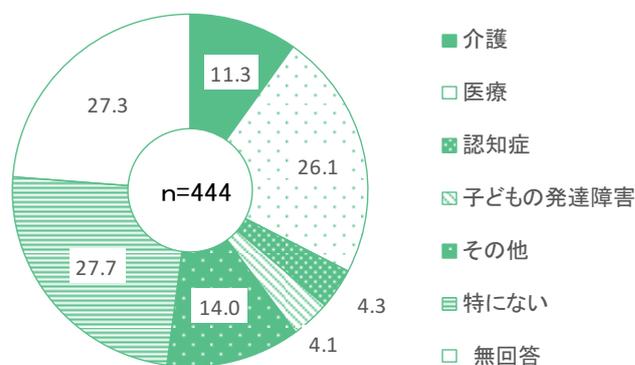
(「行かなかった」と回答した方のみ)

- ・日本の高校に進学しなかった理由は、「その他」(6件)が最も多く、次いで「子どもが母国に帰ったから」(4件)の順となっています。

n=15 (件)	
子どもを高校に行かせるお金がなかったから	1
子どもの日本語能力または学力がなかったから	0
子ども自身が働くことを望んだから	1
子どもは高校に行かなくても十分生きていけると私が考えたから	0
日本の中学校を卒業していないから	1
子どもが母国に帰ったから	4
その他	6
無回答	2

Q. あなた自身や家族に対して心配していることは何ですか？(複数回答)

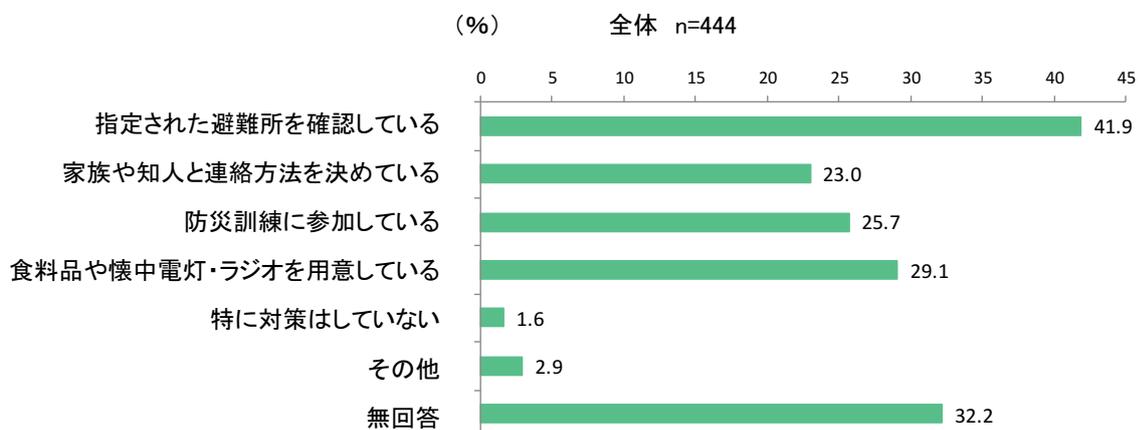
- ・心配していることは、「特にない」(27.7%)が最も多く、次いで「医療」(26.1%)、「その他」(14.0%)の順となっています。



防災対策と情報

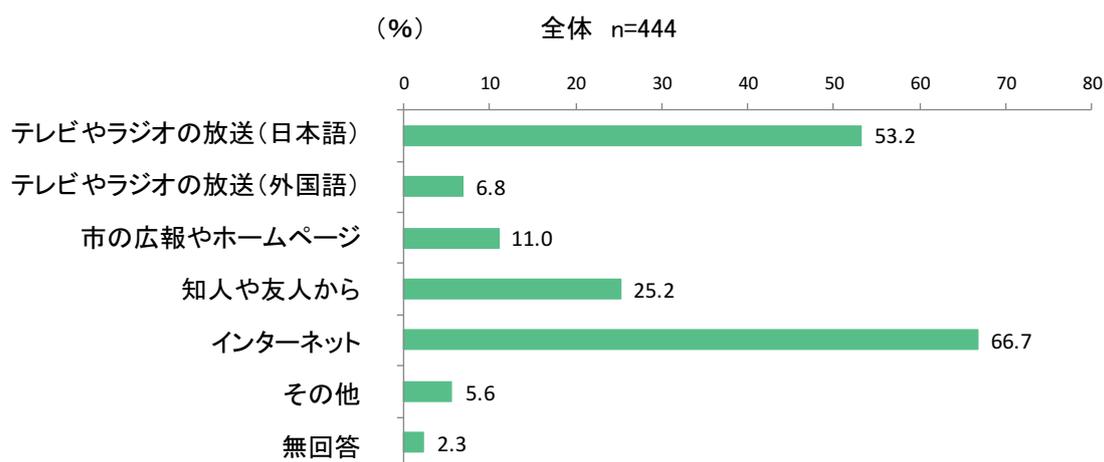
Q. 地震や大雨などの災害に対する対策をしていますか？（複数回答）

- ・災害への備えは、「指定された避難場所を確認している」（41.9%）が最も多く、次いで「食料品や懐中電灯・ラジオを用意している」（29.1%）、「防災訓練に参加している」（25.7%）の順となっています。



Q. 地震や大雨などの災害発生の情報はどこから入手しますか？（複数回答）

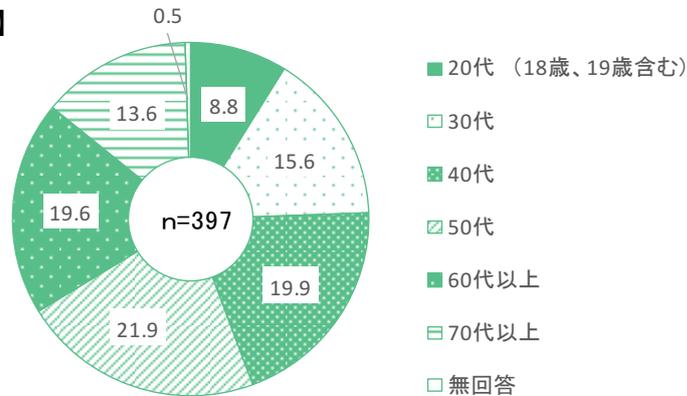
- ・災害情報の入手先は、「インターネット」（66.7%）が最も多く、次いで「テレビやラジオの放送（日本語）」（53.2%）、「知人や友人から」（25.2%）の順となっています。



Ⅲ 日本人市民の調査結果

回答者の属性

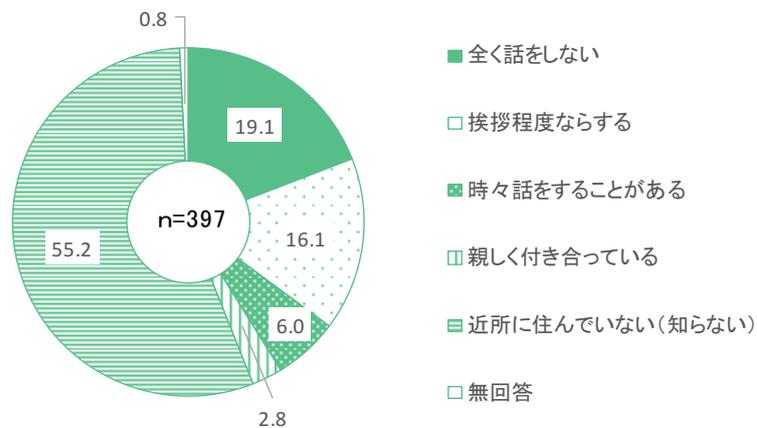
【年齢】



外国人市民との共生

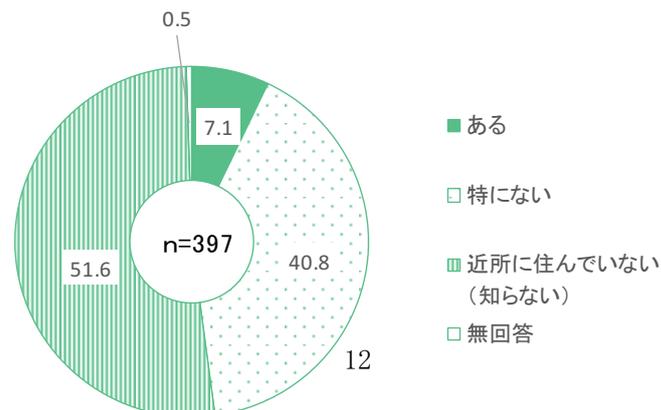
Q. 近所に住んでいる外国人とどのような付き合いがありますか？

・地域の外国人との付き合いは、5割以上（55.2%）が「近所に住んでいない（知らない）」と回答しています。



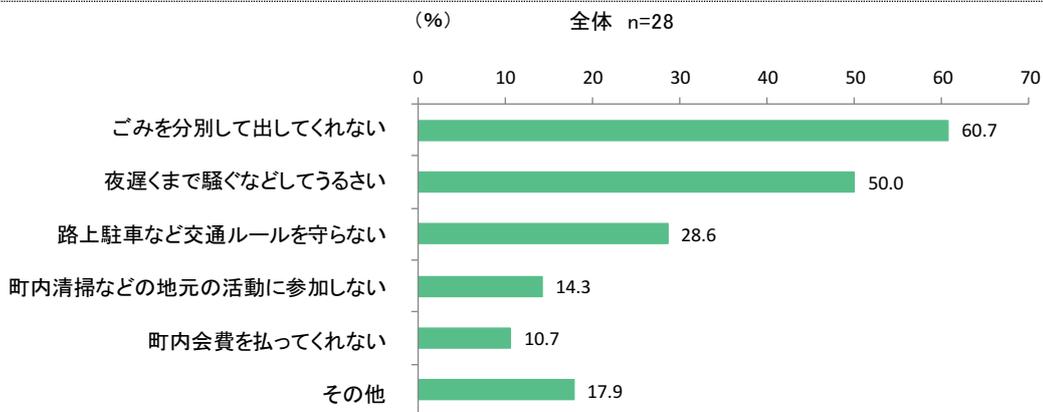
Q. お住まいの地域で外国人とのトラブルがありますか？

・地域の外国人とのトラブルは、約5割（51.6%）が「近所に住んでいない（知らない）」、約4割（40.8%）が「特にない」と回答しています。



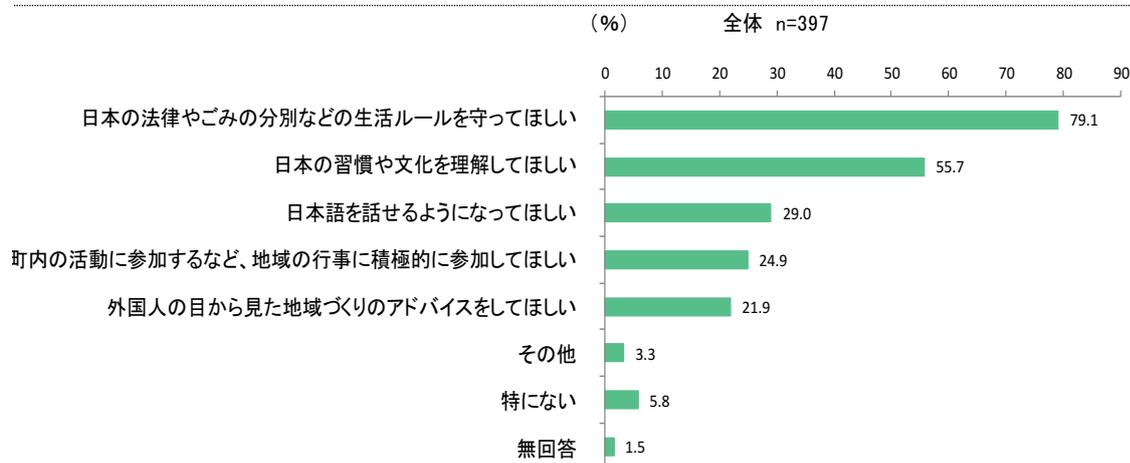
Q. どのようなトラブルがありましたか？（トラブルが「ある」と回答した方のみ・複数回答）

- ・トラブルの内容は、「ごみを分別して出してくれない」（60.7%）が最も多く、次いで「夜遅くまで騒ぐなどしてうるさい」（50.0%）、「路上駐車など交通ルールを守らない」（28.6%）の順となっています。



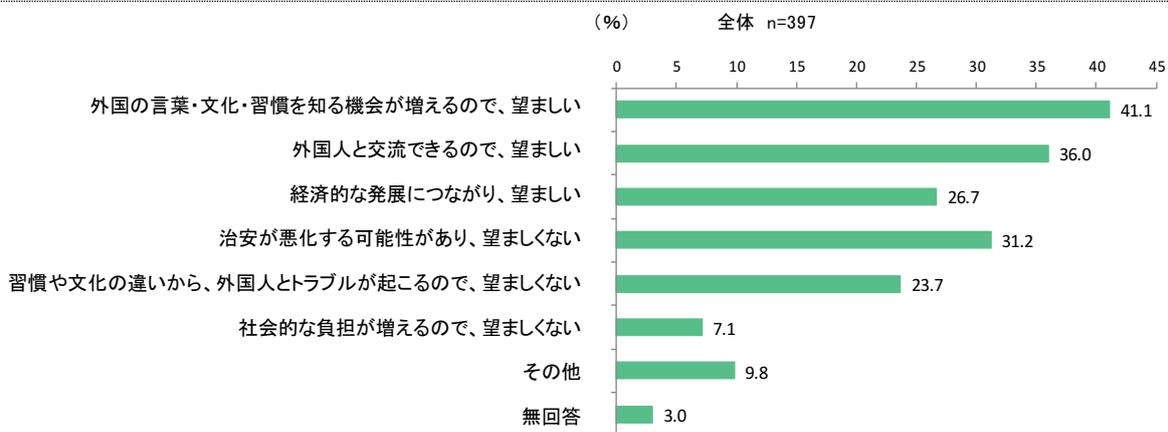
Q. 地域で暮らす外国人にどのようなことを期待しますか？（複数回答）

- ・外国人に期待することは、「日本の法律やごみの分別などの生活ルールを守ってほしい」（79.1%）が最も多く、次いで「日本の習慣や文化を理解してほしい」（55.7%）、「日本語を話せるようになってほしい」（29.0%）の順となっています。



Q. 岡崎市に在住する外国人が増えることに対してどう思いますか？（複数回答）

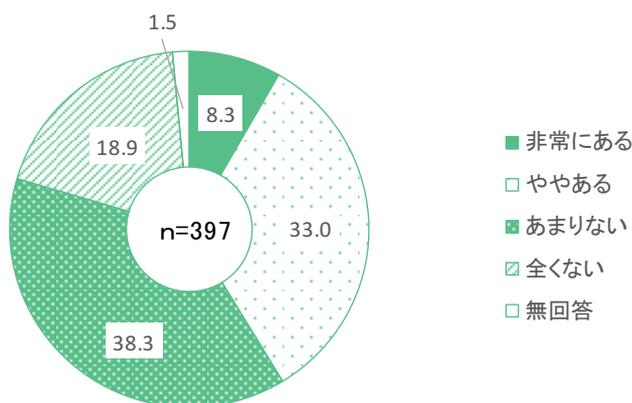
- 外国人増加に対する意識は、「外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増えるので、望ましい」（41.1%）が最も多く、次いで「外国人と交流できるので、望ましい」（36.0%）、「治安が悪化する可能性があり、望ましくない」（31.2%）の順となっています。
- 「望ましい」割合は「望ましくない」割合よりも多くなっています。



国際交流・国際理解について

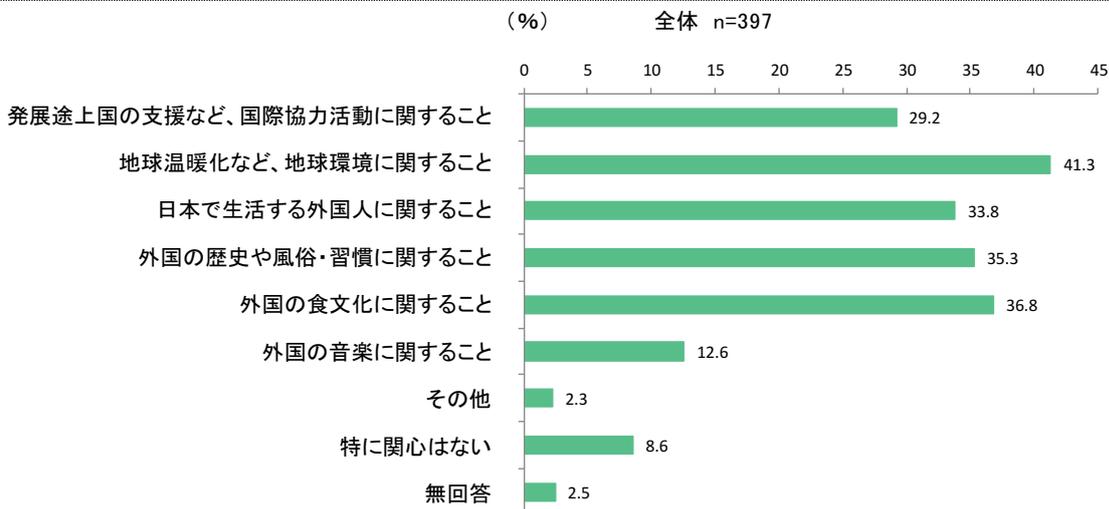
Q. 国際交流に関心がありますか？

- 国際交流への関心は、「あまりない」（38.3%）が最も多く、次いで「ややある」（33.0%）、「全くない」（18.9%）の順となっています。



Q. 国際情勢や外国の文化などに関することで、どのようなことに興味をもちていますか？
(複数回答)

- ・ 関心のある分野は、「地球温暖化など、地球環境に関すること」(41.3%) が最も多く、次いで「外国の食文化に関すること」(36.8%)、「外国の歴史や風俗・習慣に関すること」(35.3%) の順となっています。



Q. 市民の国際理解の増進を図るためには、どのようなとりくみが重要だと思いますか？
(複数回答)

- ・ 国際理解に重要な施策は、「子どもへの国際理解教育を充実する」(65.0%) が最も多く、次いで「在住外国人との交流の機会を充実する」(47.4%)、「外国人との交流会の開催など国際交流に関する市民活動を支援する」(31.7%) の順となっています。

